

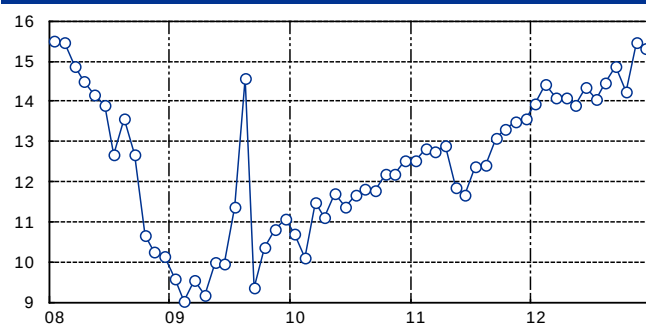
米自動車市場における日本車の復活と現地生産深化

米新車販売台数（Light vehicles、Autodata ベース）は、12月に年率1,537万台と11月の1,554万台に続き2ヶ月連続で1,500万台を超えて2012年を終えた。2ヶ月連続の1,500万台のせは、2008年初以来である。2012年合計の販売台数も前年比13.4%増加の1,449万台と、金融危機後で初めて1,400万台を上回っている。2013年の販売台数1,500万台回復が視野に入る内容であり、2007年までの1,600万台超にはなお距離が残るものの、金融危機前の販売水準に着実に接近している。自動車セクターでは米国内生産も回復しており、米国内の新車販売拡大が、個人消費の増加と自動車セクター就業者の雇用所得改善を通じて、経済成長に貢献していると判断できるだろう。

2013年の米国自動車市場において顕著だったのは、日本車のシェア回復である（以下はBloombergのデータに基づく記載）。日本車の販売台数は535万台と2008年以来の500万台を回復、伸びも前年比19.9%と、G3（7.8%）や欧州車（19.3%）、韓国車（11.4%）を上回る極めて高い伸びを示した。その結果、2011年に35%まで低下していた市場シェアが、2012年は37%へ、2%Ptも上昇している（但し、2009年に記録した40.4%には届かない）。なお、日本車以外のシェアを見ると、欧州車は9.6%（2011年9.2%）へシェアを高め、史上最高を更新したが、ストなどによる供給問題が響いた韓国車は8.7%（2011年8.9%）へ若干低下、G3は2011年の46.9%から2012年は44.6%へ大きくシェアを下げている。日本車は、2012年にG3からシェアを奪い返したと言えるだろう。

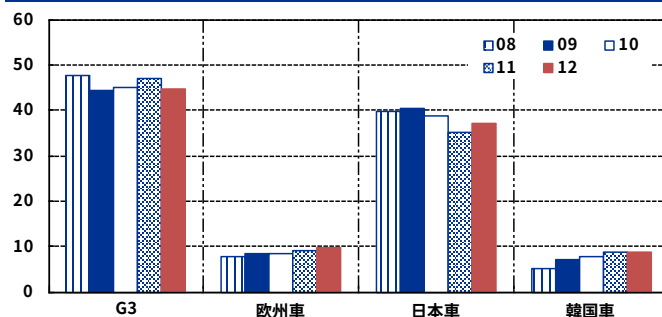
日本車のシェア回復は喜ばしいが、増加の主体は現地生産車であり、日本等から輸出された輸入車の伸びは限定的なものにとどまる。2012年の日本車内訳を見ると、現地生産車が前年比23.7%と大きく伸びを高め過去最高の販売台数を記録した。その結果、現地生産車が販売全体に占める割合は70.0%と、2005年に記録した68.1%を上回り、過去最高である。一方、輸入車は前年比11.9%と二桁増加こそ記録したものの、伸びは現地生産車の半分程度にとどまる。足元での円安進行は、日本からの輸入車の価格競争力を高めるが、販売台数の7割に達するシェアが示す現地生産化の流れに変化が生じることはありえない。

米新車販売台数の推移（年率、百万台）



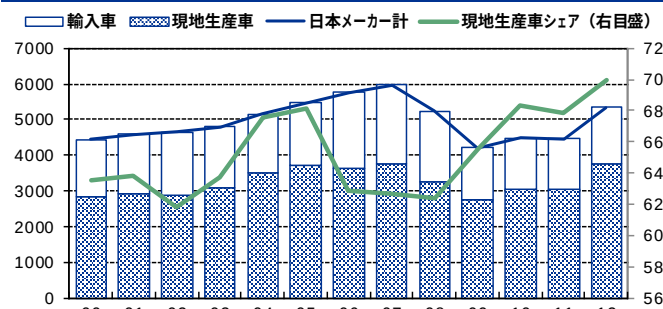
（出所）CEIC Data, Autodata

米自動車市場販売シェア（%）



（出所）Bloomberg

米市場における日本車販売台数の推移（千台、%）



（出所）Bloomberg